



国立大学リスクマネジメント情報

2018(平成30)年10月号

<http://www.janu-s.co.jp/>

特集テーマ

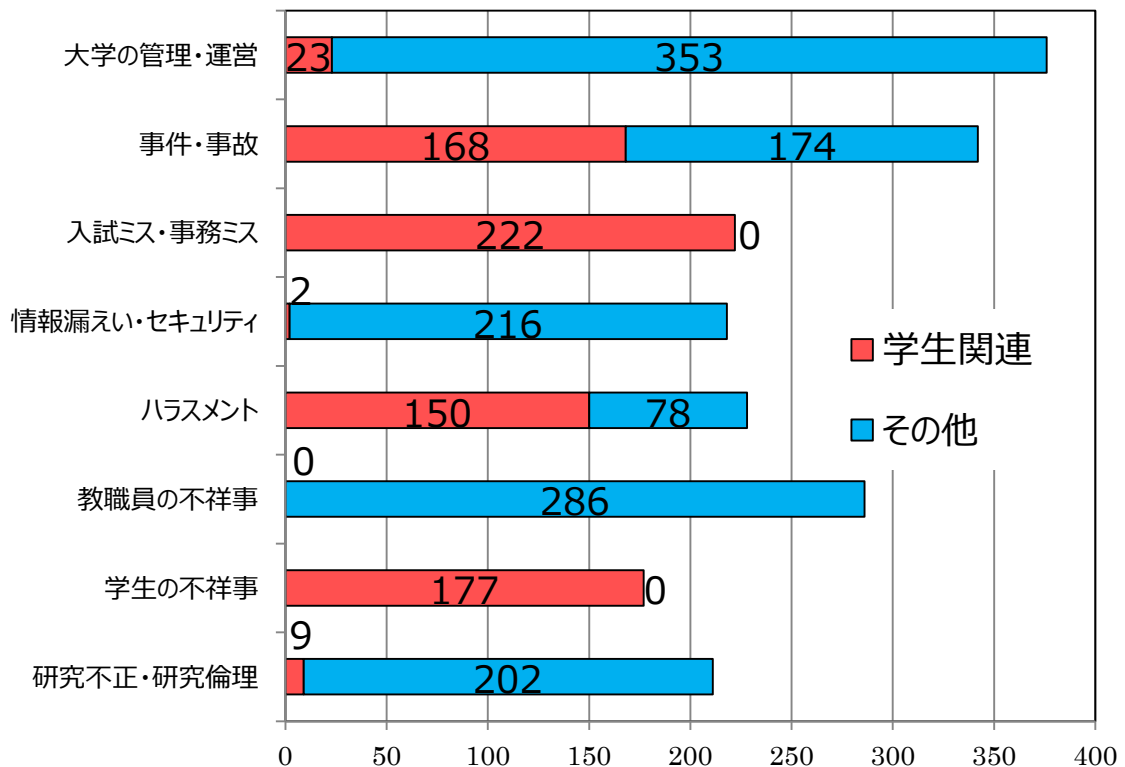
ニュースに見る学生トラブル

「国立大学リスクマネジメント情報」では、毎号末尾に「大学リスクマネジメント News PickUp」として、新聞やネットで報道された大学のリスク管理に関するニュースの概要を掲載しています。大学には附属学校等があることからニュース内容によっては小中高校等の関連機関のニュースも含まれます。本号では、その中から学生トラブルに関するニュースをとりあげます。

1. 学生に関する報道の概況

2008年9月から2018年5月までの9年9か月のニュースとして掲載した2,060件についてその分類をしてみると、以下のとおりとなります。掲載を省略した案件もあり、全件を網羅しているわけではないので、数字としては正確さを欠きますが、おおよその傾向を知ることはできます。

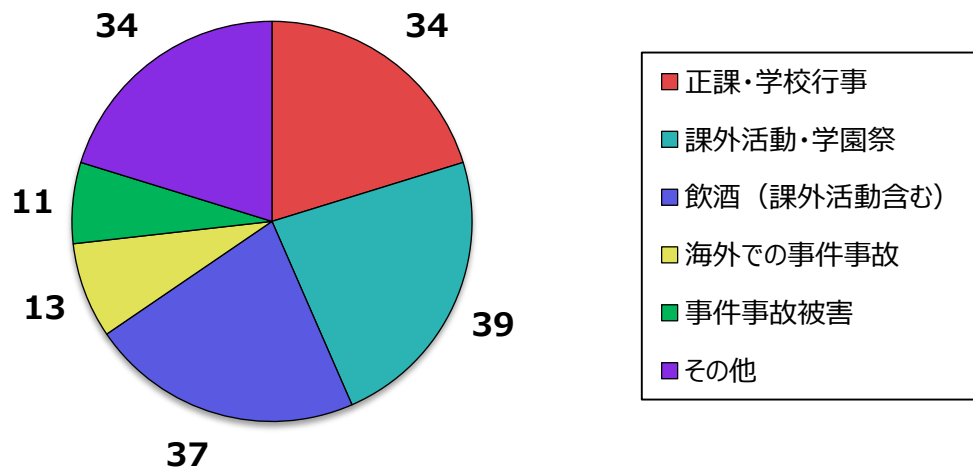
この内、学生と大学とのトラブル、学生間のトラブル、学生が事件・事故に巻き込まれたり、学生が事件・事故を起こしたという学生関連の報道が607件、全体の約30%を占めます。





2. 事件・事故

事件・事故に関する報道 342 件の内、学生に関連するものは約半数の 168 件で、その内訳をみると、実験や実習中の爆発等、正課・学校行事中の事故が 34 件、課外活動に関連したものが 39 件、飲酒に関連したもの（課外活動含む）が 37 件、海外での事件・事故が 13 件、事件・事故の被害にあったものが 11 件、その他が 34 件です。



1) 正課・学校行事の事件・事故の事例

年	ニュースの概要
2010	授業で水中生物の採取をしていたO大 2 年生の学生が川で溺れ、病院に運ばれたが死亡。授業は生物学の実習で、学生 23 人と引率の准教授 2 人が川辺で実施。開始後間もなく他の学生が同人のいないことに気づき准教授が付近を捜したところ深さ 2メートルの川底に沈んでいた。実習前には准教授が安全面の注意をしたという。
2010	O大の院生が、実験中に誤って高電圧の電源に触れて感電、一時意識不明だったことが報道。
2011	08 年、O大のスキー実習中に立ち入り禁止のコースに侵入し女子学生 2 人が雪崩に巻き込まれ死亡した事故で、学生を引率した当時の非常勤講師が業務上過失致死罪で在宅起訴。
2016	実験中に起きた爆発事故で左手小指を失うなどの重傷を負った元O大学大学院生が、安全配慮義務を怠ったとして同大学に約 6,000 万円の損害賠償を求めている裁判で、大学側が安全管理体制が不十分だったことを認めて 3,100 万円を元院生に支払う和解が成立。
2016	イベントに出展したジャングルジム形の展示作品が燃え、児童が死亡、2 人がけがをした火災で、作品を制作した学生が在学するO大学の学長が、記者会見で謝罪。制作段階で複数教員が指導、大学として出展許可し補助金を支給。
2017	O大学の演習林で、学生らが調査に使用していたドローンが落下して出火。約4ヘクタール延焼。
2017	O大学の実験室で、学生らが実験中に発生する水素を「ドラフトチャンバー」で排気する作業を終えて実験室を離れた直後に爆発し、窓ガラスや蛍光灯が破損。



2) 課外活動・学園祭の事件・事故の事例

年	ニュースの概要
2009	○大学生が操縦するパラグライダーが墜落し負傷。大学のクラブ活動でパラグライダーを始め、仲間と飛行を行っていた。
2012	○中学校の柔道部員の男子生徒が練習中に倒れ、脳挫傷で死亡した事故で、受け身の練習など負傷事故に対する防止策を十分にとらず、投げ込み練習中に後頭部を強打した男子生徒を死亡させた疑いがあるとし、柔道部顧問の男性教諭を業務上過失致死容疑で書類送検。
2012	○大のグラウンドで、同大陸上競技部の学生が投げたやりが、練習を見学していた女子高生のこめかみに刺さり、重傷を負わせる事故。記者会見で、大学側は施設利用面の不備を認め謝罪。
2012	○高校の1年生野球部員が、校外でのランニング中に熱中症で死亡。終了後、点呼等が行われなかったため、学校は翌日まで気づかず。
2016	○大学の馬術部の馬が飼育場所から逃げ出し、1kmほど離れた集合住宅の敷地内に入り込み、住民から通報を受け警察と馬術部の学生とで捕獲。
2016	○大学のワングル部の学生6人のパーティーのうち3人が雪崩に巻き込まれ1人が心肺停止（のち死亡）。
2016	○大学サッカー部員が練習中に死亡したのは、AEDをすぐに使わなかったためだとして遺族が大学側に約7,800万円の損害賠償を求めた訴訟で、大学側が遺族に和解金を支払い、「遺憾の意」を示すことや今後学生の安全に配慮することで和解が成立。
2017	○大学のグラウンドで練習をしていたアメリカンフットボール部の部員が、熱中症とみられる症状を訴えて病院に搬送されたが、その2時間後に死亡。

3) 飲酒の事件・事故の事例

年	ニュースの概要
2011	○大の学生らが4月に開いた花見会で、同席した教授と准教授が、未成年の学生が複数いると知りながら制止しなかった問題で、同大学は、教授と准教授をそれぞれ2カ月の出勤停止処分とした。
2011	○大の施設で飲酒し死亡した男子学生の両親が、同席していた上級生と大学側に約1億円の損害賠償を求めた訴訟で、和解が成立。アルハラで死亡したことを大学側が認める。大学側が訴訟でアルハラを認めたのは初めて。
2012	○大の学生が、2009年テニスサークルの合宿中に急性アルコール中毒死したのは、上級生らに飲酒を強要されたためとして、両親が上級生らと大学に損害賠償を求めた訴訟は、地裁で和解が成立。地裁は上級生ら23人に解決金の支払いを勧告。
2012	先輩から酒を飲まされた上に暴行を受けて後遺症を負ったとして、○大元柔道部員の男性が、同大を運営する学校法人や先輩らを相手取り、約8,868万円の損害賠償を求め提訴。
2014	○大学で1年生の男子学生が飲酒後に死亡した事故で遺族と同大、当時の上級生9人との間で和解が成立。契約書には再発防止策として新入生対象の講習会開催が明記。
2015	○大学のサークルのコンパで大量の飲酒をした学生が急性アルコール中毒で死亡した事故で、亡くなった学生の両親が、参加していたサークルのメンバー21人を相手取り、慰謝料など約1億7,000万円の損害賠償金を求める訴を提起。
2017	○大学は、2月に約70人が参加した大学公認のサークルの合宿で、学生が飲酒後に救急車で病院に運ばれ死亡したと発表。同大では、14年6月と13年2月にも飲酒後の死亡事故が起きている。
2017	○大学1年の男子学生が、サークル仲間との旅行中に急性アルコール中毒で死亡。



4) 海外の事件・事故の事例

年	ニュースの概要
2009	エチオピアで誘拐された〇大学大学院生が解放。
2009	〇大学の留学生がひったくりに襲われ死亡した事件でフランスの裁判所は懲役12年の判決。
2012	日本語を教える研修のため訪れていたルーマニアで、〇大の女子学生が遺体で発見。殺人容疑で逮捕された容疑者の自宅から、女子学生の携帯が発見。
2013	世界遺産に登録されているトルコの観光地で〇大学の女子学生がナイフで刺され1人が死亡、もう1人が重体。
2014	ワシントン州の大学に留学中の日本人の学生4人が乗った乗用車が、中央線を越えて反対車線にそれて横転し、1人が死亡、3人が負傷。
2015	韓国の大学に通う日本人の男子学生の行方が今月初めから分からなくなっており警察や消防で捜索。
2015	米国のシアトルで観光用の水陸両用車が対向車線の大型バスなどに衝突してバスに乗っていた日本人1名を含む留学生4人が死亡。
2016	〇大学の学生が「国際協力の実情を知るため発展途上国を中心に世界を回りたい」と休学して、コロンビアに滞在中に銃で撃たれて殺害。

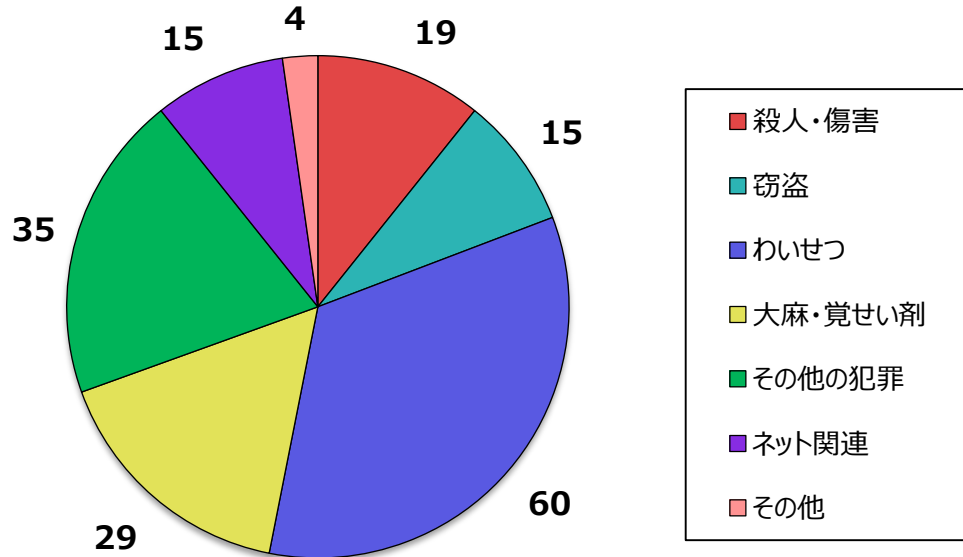
5) 事件・事故被害の事例

年	ニュースの概要
2009	〇大構内で女子学生に乱暴しようとした疑いで県職員が逮捕。その後、別の同大女子学生への乱暴容疑で再逮捕。
2009	〇大の女子学生のマンションから火災。発見された焼死体が同人と確認され、殺害されたものと判明。
2009	広島で発見された頭部の遺体が10月下旬から不明の〇大女子学生のものと確認。同大は、学生の遺棄事件をうけて希望する学生に防犯ブザーを配布。
2010	〇大生が殺害され自宅が放火された事件で、別件で逮捕されていた男が事件への関与を認める供述を行っていたことが報道。
2010	〇大は、工学部卒業生の自宅に9月以降に振り込め詐欺とみられる電話が相次いでいると発表。大学は、卒業生に注意喚起の葉書を送るほか、HP上に注意を掲載するなどの対応を開始。
2011	〇大院生が自転車で帰宅途中、自転車で追い抜きざまに胸を触った男が逮捕。院生は逃走した男を約3キロ、約20分にわたって追跡した。
2015	教え子で大学院生の女性を殺害したとして、〇大学准教授が殺人容疑で逮捕。
2016	長野県のバイパスでスキー客を乗せたバスが道路から転落し、乗客の大学生12人と乗員2人を合わせた14人が死亡。



3. 学生の不幸事

学生の不幸事に関する報道 177 件の内、殺人・傷害が 19 件、窃盗が 15 件、わいせつ行為が 60 件、大麻・覚せい剤が 29 件、その他の犯罪が 35 件、ネット関連が 15 件、その他が 4 件となります。



1) 殺人・傷害の事例

年	ニュースの概要
2011	高速バスが横転し計 12 人が負傷した事故で、○大の学生が殺人未遂容疑で逮捕。事故の 10 分前「降ろせ」とわめき出しハンドルを奪って左に切った。就職活動の帰途だったとみられている。同大は翌日記者会見を開き学長が謝罪。
2011	○大の男子学生が、知人の女性の首を絞め殺害し、逮捕されたことが報道。自分も死ぬつもりだったと供述。
2012	○大キャンパスで、男性が腹部にナイフが刺さった状態で倒れていると 119 番通報。男性はベトナム人留学生で、警察の調べに対し「自分で刺した」と説明。
2012	○県立大学校の構内で、同校の学生が職員室にいた助教授の頭を殴打し殺害。女子寮の鍵を奪ったうえ、寮に侵入し、女子学生の首を絞めて殺害しようとしたとして強盗殺人などの容疑で逮捕。
2014	○大学の学生が、スマートフォンで「死ねよ」などとメッセージを送り交際相手の女性を自殺させたとして自殺教唆容疑で逮捕。
2015	男性の顔を数回殴ったうえ局部を枝切りバサミで切断し重傷を負わせた疑いで、警視庁は○大学の法科大学院生を逮捕。
2016	○大学の学生寮で、ルームメイトのベトナム人留学生に熱湯を掛けた上、包丁で切りつけた同国留学生が殺人未遂の疑いで逮捕。
2017	空き家となっている住宅で女子高生が殺害された事件で事件に関わった疑いがもたれている学生が通う○大学が会見を開き、理事が責任を痛感しており、被害者と家族にお悔やみを申し上げますと述べる。
2017	女子大学生が、同じ大学に通う元交際相手の男性に、金づちや包丁で襲いかかり逮捕。



2) 窃盗の事例

年	ニュースの概要
2010	学生が牛丼店に強盗に入り、逮捕、起訴された事件を受け、○大は、学生不祥事の再発防止への取組みを発表。学生の状況の把握と指導、教育・支援、教職員研修を3本柱とし、保護者懇談会や緊急融資制度などを実施する。
2010	○大の学生が、アルバイト先のバーを経営する会社名義のキャッシュカードを使って90万円を引き出したとして、窃盗の疑いで逮捕。
2011	○大のホッケー部員3人が強盗や恐喝容疑で相次いで逮捕され、同部は無期限活動停止処分に。
2014	○大学の学生が同じ寮に住む学生のキャッシュカードを使って不正に現金を引き出したとして逮捕。
2014	○大学の学生がダンスクラブで客の財布を盗んだとして窃盗容疑で逮捕。同大では、別の二人の学生も同様の盗みで逮捕されている。
2017	○大学の1年の学生が、パン屋で金を奪おうとして強盗未遂の疑いで現行犯逮捕。「強盗すれば入学したばかりの大学をやめられると思った」と供述。
2017	○大学の学生が、転売目的で他人のノートパソコンを盗んだとして窃盗容疑で逮捕。
2018	○大学大学院生が、同じ学生寮に住む学生の部屋に侵入しテレビとDVDレコーダーを盗んだとして、住居侵入、窃盗の容疑で逮捕。
2018	○大学の大学院生が、大学図書館から本を盗んだとして逮捕。大学構内の学生寄宿舍内のゴミ捨て場に図書館の蔵書78冊がゴミ袋に入れて捨てられ、大学は警察に窃盗の被害届を提出していた。大半は理科系の講義で使用する教科書類。

3) わいせつの事例

年	ニュースの概要
2010	○大研究生が、女性宅に押し入って乱暴、強盗強姦の疑いで逮捕された事件で、地検は強盗強姦、住居侵入罪で起訴。同大は法令順守を徹底するよう、全学生約6,500人にメールで呼びかけた。
2012	集団準強姦容疑が不起訴処分となった○大の男子学生ら4人が、大学を相手取り、無期限停学処分の無効確認などを求めた訴訟の控訴審判決で、処分を無効とした1審判決を変更、大学の行った処分は有効と判断。
2015	○大学○学部の学生・職員計3人が今年3～8月に強姦容疑などで相次いで逮捕されたことを受け、同学部は、「非常事態宣言」を出し、倫理向上を求めるメールを全学部生に送付。
2016	女性に集団で性的暴行をしたとして○大学の学生3人を逮捕。同大医学部は、謝罪会見を行うとともに学内に調査委員会を設置したと発表。12月5日、同大病院研修医も準強制わいせつの疑いで逮捕。
2017	飲食店で女性アルバイト店員をトイレに押し込んで体を触りその様子を携帯電話で撮影した疑いで、○大学学生が逮捕。
2017	昨年9月、○大学の学生6人が酒に酔った女子学生に集団で性的暴行を加えたとされる事件で、警察は学生6人を集団準強姦の疑いで書類送検。
2017	停泊中の大学実習船内で女子学生の浴室を盗撮したとして大学生が逮捕。
2017	○大学の男子学生が、男子高校生とみだらな行為をしたとして逮捕。
2017	○大学の学生が、小学校での実習中に女児の体を触ったとして逮捕。



4) 大麻・覚せい剤の事例

年	ニュースの概要
2010	○大学院の留学生 2 人が、大学敷地内で大麻草を栽培していたとし、大麻取締法違反容疑で逮捕。1 人は自宅での栽培容疑で既に逮捕、起訴されていた。
2012	○大生が、関西国際空港で覚せい剤取締法違反容疑で逮捕。知人からメールで約 8 万円でウガンダから荷物を運ぶ仕事の誘いを受け渡航。中身が覚せい剤とは知らなかったと供述。
2016	大麻取締法違反（所持）の疑いで、大学 1 年の学生が逮捕、少年 5 人が書類送検。学生から少年に譲渡されていたとみられる。
2016	高校 3 年生に覚せい剤とコカインの混合粉末 0.8 グラムを譲り渡したとして大学生を逮捕。
2017	関西の 4 私立大学の共同の新入生に対する意識調査の結果がまとめ、6 割が薬物が手に入ると回答。
2017	2 大学の外国人留学生 2 人が、大麻取締法違反や麻薬取締法違反の疑いでそれぞれ逮捕。
2017	○大学の留学生が、ヘロインと合成麻薬 MDMA を密輸したとして、麻薬取締法違反（輸入）により逮捕。
2017	○大学の学生が、自家用車内で大麻と合成麻薬 MDMA を所持したとして、大麻取締法違反（所持）容疑で逮捕。
2018	○大学の外国人留学生男女 6 人が大学寮などでコカインを譲りうけたとして、麻薬取締法違反の疑いで逮捕。

5) その他の犯罪

年	ニュースの概要
2009	○大学の留学生 8 人がキャバクラを経営、2 年で約 5,000 万円を外国送金したとして入管難民法違反容疑で逮捕と報道。
2009	部員が大麻所持の疑いがあるとして捜索を受けた○大陸上部の合宿所から偽札数枚が発見。
2010	在留資格更新目的で偽装結婚を企てたとして○大生を含む 3 人を逮捕、中国籍会社員を書類送検。
2012	○大の学生が投資家から資金を集めた事件で、地裁は、学生に対し、投資家 4 人に合計約 6,000 万円の支払いを命じる判決。
2014	シリアで台頭する過激派「イスラム国」に加わるため海外渡航を企てたとして、警視庁は刑法の私戦予備・陰謀の疑いで、○大学の学生らから任意で事情を聴くとともに、関係先数か所を自宅捜索。
2015	○大学大学院生が、知人の交際相手の名誉を傷つけるピラを大学構内に掲示したとして名誉棄損の疑いで逮捕。
2016	○大学の学生が、JR 中央線の線路に自転車を投げ込んだとして列車往来危険などの疑いで逮捕。
2016	○大学の学生 2 人が、ドイツで行っていた課外活動中に世界遺産に登録されているケルン大聖堂の回廊の壁にペンで落書きし、副学長と学生が大聖堂に直接出向き謝罪していたことが判明。
2017	○大学の学生 42 人が、画像編集ソフトを無料で使える試用期間を不正に延長して使用、大学は当該学生に対して口頭で嚴重注意。
2017	○大学の学生が、オレオレ詐欺に関与していたとして現行犯逮捕。



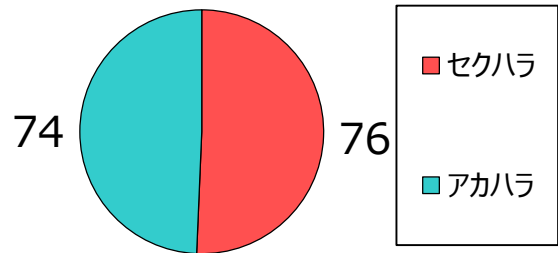
6) ネット関連の事例

年	ニュースの概要
2009	〇大の特定の学生の実名を挙げた誹謗中傷がインターネット掲示板に大量に書き込まれ、大学は同学生が所属するコースの学生に警告を行っていたことが報道。
2009	〇大はネットで同大学の特定の学生の中傷を繰り返していた男子学生を1カ月の停学処分にしたと発表。
2010	〇大生が一般人を撮影した不適切な動画を制作しYouTubeで公開した問題で、同大は学長謝罪文を大学サイトに掲載。2人を退学、1人を停学(1月)の処分。
2010	参院選候補者に対し誹謗中傷する書き込みをインターネット掲示板に行ったとして名誉毀損の疑いで〇大4年生の学生が逮捕。
2012	〇大ラグビー部の男子学生が、寺院でアルバイト中に下半身を露出して接客していた画像がインターネット上に流出した問題で、学長ら大学関係者が寺院を訪れ、住職に謝罪。
2013	〇市立看護専門学校の学生が講義中に検体(大腸や胃)をスマートフォンで撮影し、ツイッターに掲載。同校や市に電話やメールが相次ぐ。
2014	〇大学は、学部の1年生がツイッターに「無銭飲食をした」という内容の投稿をしていたと発表。大学は被害に遭った飲食店に対し謝罪。
2014	〇大学は、多数の若者がこん睡状態で倒れた状況がネット上にしつこく出回った騒動について、同大学の公認サークルの部員による騒動と認め、謝罪。
2016	〇大学のサークルメンバーがスーパー店内で大声で踊る動画がツイッターに投稿され炎上。投稿した学生の個人情報も暴かれる。
2017	インターネットで知り合った中学3年生の女子生徒を自宅に誘い込んだとして、男子学生が逮捕。

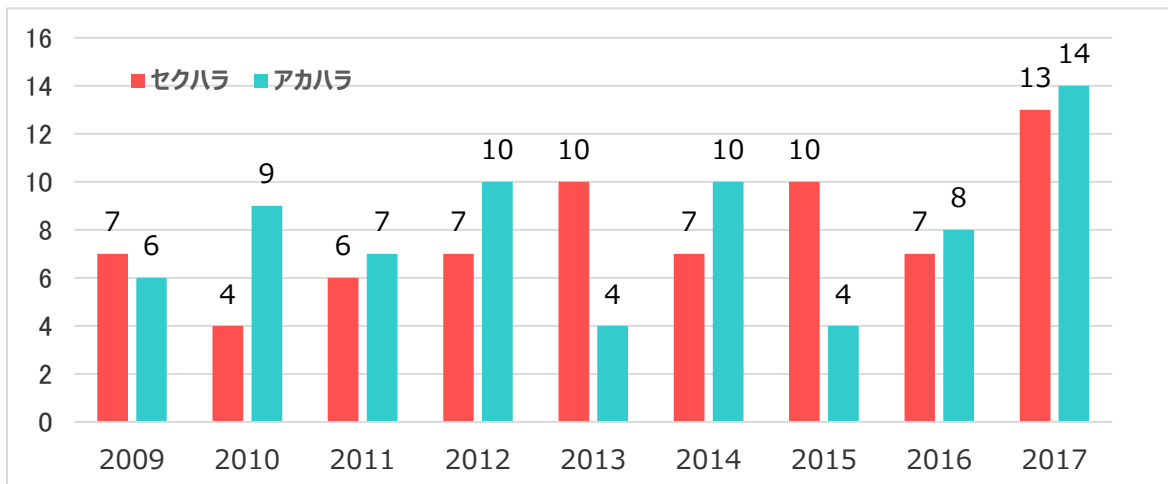
4. ハラスメント

セクシャルハラスメントやアカデミックハラスメントの報道 228 件のうち学生に対するものは 150 件、約7割を占めています。

セクシャルハラスメントとアカデミックハラスメントの件数でみると、セクシャルハラスメント 76 件、アカデミックハラスメント 74 件と、ほぼ同数になります。



2009年から2017年の件数を見ると以下のとおりです。





1) セクシャルハラスメント

年	ニュースの概要
2009	○大の元院生が、教員からセクハラを受けた後の大学の対応に問題があったとして損害賠償を求めた訴訟で、○地裁は大学に330万円の支払いを命じる。元院生は指導教員からわいせつ行為を受け、教員は自主退職、示談が成立。大学は教員の退職理由を明らかにしなかったため、元院生は教員の退職に責任があると周囲からみなされ大学院を退学した。
2009	○大教育学部附属小学校に勤務する30代の男性教諭が、教育実習中の女子学生にセクハラをしたとして、停職3カ月の懲戒処分。女子学生からの報告で発覚。
2012	○大は、女子学生と女性職員に対しセクハラ行為をしたとして、男性職員を懲戒解雇処分にしたと発表。同大でのセクハラ行為による懲戒処分はここ10年で4回目となり、学長が責任を取り辞任。
2012	○大は、男子学生にセクハラをしたとして、男性教授を停職3カ月の懲戒処分にしたと発表。
2016	○大学の非常勤の英語講師だった米国人男性が、授業中に男子学生から尻を触られるセクハラ行為を受けたのに大学側が適切な対応を怠ったとして、学生と学園に計275万円の損害賠償を求めた訴訟で、地裁は学生と学園に計99万円の支払いを命じる判決。
2017	○大学は、女子選手に性的嫌がらせをしたとしてボクシング部の男性監督を、諭旨解雇処分。
2017	○大学は、大学で開かれた研究会の内容を聞きに来た他大学の女子大学院生にセクハラ行為をしたとして准教授を停職5カ月の懲戒処分。
2017	○大学の教員が、卒論指導の条件として、自らの結婚相手を紹介するよう求めた文書を学生に配る等の行為をしたとして停職3カ月の懲戒処分。学生が別の教員に相談し発覚し、その後の調査で女子学生2人を自宅で指導したり、特定の女子学生を頻りに食事に誘うなどしていたことも判明。教員は依願退職。

2) アカデミックハラスメント

年	ニュースの概要
2009	自殺した○大院生の両親がアカデミックハラスメントが原因として指導教員に5,000万円の損害賠償裁判を提訴。
2010	○大大学院生が、一昨年、博士論文作成中に自殺した問題で、両親が准教授の不適切指導が原因で精神的に追い詰められたとして、○大と准教授に1億円余りの賠償を求め提訴することが報道。
2010	○大の在日インド人学生が大学でいじめを受けたとする遺書を残し自殺したにもかかわらず、大学は隠蔽工作とも取れる対応に終始したとして、遺族が弁護士会人権擁護委員会に人権救済を申し立て。
2014	所属するゼミの准教授から繰り返し宗教団体からの脱退を言われ信教の自由を侵害されたとして、○大学の元学生が大学側に440万円の損害賠償を求めた訴訟で、地裁は8万8千円の支払を命ずる判決。
2016	○大学は、学生が昨年、当時の講師から指導の範囲を超えた叱責や嫌がらせを受けた後自殺をしていたと発表。同大は、アカデミックハラスメントを認定し、今後、弁護士などによる調査委員会を設置して自殺との因果関係を調べる。
2016	○大学付属高校で、生徒1人が複数の生徒からいじめを受けて手を骨折するなどの「重大事態」があったにもかかわらず文科省への報告の遅れなど対応が不適切だったとして、当時の校長ら4人を戒告処分。
2017	○大学の男子学生が2015年に自殺したことについて、大学が設置した第三者調査委員会は自殺とアカハラの因果関係を認定。学生の両親は、助教と大学に計約1億1,900万円の損害賠償を求めて提訴。大学は、この日の定例記者会見で学生の自殺について公表。



5. トラブルの防止と対応策

大学は「リスクのデパート」とも呼ばれ、様々な事件・事故が発生します。大学に関するものは社会的な関心も高く、被害者対応、メディア対応の初動を誤ると、社会的に大きな波紋を広げ、被害者との解決が長期化することになります。

中でもその多数を占める学生を巡るトラブルについて、適切な防止と対応策を取ることが求められます。

1) 学生とのトラブルの防止と対応策

1. 安全管理、安全教育・指導の徹底
2. 教職員、学生のリスクリテラシーの向上
3. 事故への迅速、適切、誠意ある初期対応
4. 学生の学研災等の傷害保険への全員加入
5. 大学の賠償責任保険の活用

2) 学生のトラブルへの対応

1. 安全教育の徹底・指導の徹底
2. 学生のリスクリテラシーの向上
3. メディア対応等、大学としての責任ある社会への迅速、適切な発信
4. 学生の学研災等の傷害保険への全員加入
5. 学生の賠償責任保険への加入

H30. 9 月

大学リスクマネジメント News PickUp

<大学の管理・経営>

<Web上のニュースから検索>

9. 1 新聞社が、南海トラフ巨大地震の発生時に震度6以上の揺れが想定される地域の37国立大学に調査を実施し、そのうち保有する研究機器や歴史的資料を保護するための防災計画を策定しているのは9大学と約4分の1であるとの調査結果が報道。
9. 3 経団連会長が就活ルール廃止に言及。報道に度々とりあげられる。その後、2021年春入社の就職活動スケジュールについて、政府と経済界、大学は採用面接開禁を6月1日とするスケジュールを維持すると発表。
9. 4 文部科学省は医学部医学科を有する81大学に対し、特定の受験者への加点や、性別、年齢による合否判定での差異の有無を調査したところ、約8割の63大学で男子の合格率が女子より高かったとする調査結果を発表。
9. 13 東京工業大学は、授業料を学部・大学院共に値上げすることを発表。文科省標準額を学部で上回るのは初。2019年4月入学の学部生、同9月入学の大学院生から適用予定。
9. 25 文部科学省と日本私立学校振興・共済事業団は、2019年度から予定していた入学定員100%を超える私立大学に私学助成を減額するペナルティーの実施を当面見送ることを通知。
9. 26 ○大学は、旧日本軍731部隊の軍医が申請した学位論文が人体実験をもとにした可能性がある問題で調査開始決定。



<事件・事故>

- 9. 7 ○大学の△キャンパスにある鉄筋コンクリート3階建ての建物から出火し、1階の研究室3室計110㎡を焼き、研究室を利用していた卒業生が遺体で発見。
- 9. 17 ○大学の准教授が、実家に帰省中に海で水死。
- 9. 18 ○大学の元大学院生が、海外での類人猿観察中に、樹上の類人猿の喧嘩により落下した枝がぶつかり下半身まひになったのは、大学の海外調査時の事故防止マニュアルの不備や担当教授の指導不足が理由として、大学と担当教授に約2億7千万円の損害賠償を求めて提訴。
- 9. 20 ○大学は、柔道部の男子部員がコーチから木製の棒でたたかれ、後遺症が残る大けがをしたとして、大学はコーチとの契約を解除。
- 9. 23 イギリス・ロンドンの中学校で、Tシャツの中にチーズを入れられた13歳の少年がアレルギー反応によるショックで死亡。
- 9. 26 ○大水泳部は、部内で上級生から下級生への暴力があったと発表。監督が記者会見で謝罪。暴行後、加害者の上級生は被害者の下級生とその両親に謝罪し、当事者間では解決。部は部内の問題として大学に報告するのを怠っていた。

<情報セキュリティ>

- 9. 18 日本経済新聞社と関連ウェブサイトの国立大学向けの共同調査によると、全体の約3割の大学が過去3年間にサイバー攻撃による情報漏えいや業務停止の被害を受けたことがあるとの調査結果が報道。
- 9. 25 ○大学の学生が、教員用パソコンに情報を抜き出すソフトを無断で入れ教員が作成した試験や講義資料など計1万4655件を抜き出していた問題で、不正指令電磁的記録供用罪で略式起訴され、裁判所は罰金15万円の略式命令。
- 9. 28 ○大学の、複数教職員のメールアドレスがフィッシングにより乗っ取られ、約36万件の迷惑メールが送信され、学内関係者の氏名、役職、学年などの個人情報が見られた可能性がある。

<ハラスメント>

- 9. 15 ○大学校は、空手部の複数の部員に平手打ちなどの暴行をしたり、複数の女性部員に自分の体をマッサージさせるなどのパワハラ、セクハラをしたとして、指導教官を停職3日間の懲戒処分。
- 9. 21 ○大学大学院の元教授(7月解任)からセクハラを受けたとして元大学院生の女性から被害の申立てがあった問題で、当大学はセクハラ被害の相談をされた別の教授と准教授2人に対し対応が不適切だったとして訓戒処分。

<学生・教職員の不祥事>

- 9. 12 ○大学の留学生がビルに侵入し、帰宅した20代の女性に無理やり抱きつきキスした疑いで逮捕。
- 9. 20 ○市の交番で勤務中の巡査長が刺殺された事件で、別の警察官に現場で撃たれて死亡した学生が通っていた大学は、学長名でホームページにお詫び文を掲載。
- 9. 23 自宅で高性能爆薬を製造し、3Dプリンターで自作したとみられる拳銃を持っていて、大学1年の少年が逮捕。爆薬は海外のテロに使われたものと同じ種類で、拳銃は殺傷能力が認められた。爆薬の原料は高校で入手したと話しており、薬品は金庫に入れカギをかけ生徒に渡すことはしなかったとしているが、一部がなくなっていた。

配信について
 本誌は、各国立大学・大学共同利用機関の国大協保険ご担当者、国大協連絡登録先、ご登録いただいた方にメールで配信させていただいております。(無料) 配信登録、解除は弊社ホームページからお願いします。⇒ <http://www.janu-s.co.jp/>

情報提供のお願い
 各大学等でのリスクマネジメントに関する取組み、事故・事件への対応のご経験、ご感想、ご要望等をお寄せください。
 ⇒ info@janu-s.co.jp

バックナンバー

- 18. 9月 国大協保険の保険金支払概況(3)
- 18. 8月 平成30年7月豪雨
- 18. 7月 大阪府北部の地震と保険適用
- 18. 6月 受入留学生の事故と保険のFAQ
- 18. 5月 海外渡航中の事故と保険のFAQ
- 18. 4月 臨床研究保険の改定
- 18. 3月 臨床研究法
- 18. 2月 障害者雇用促進法の改正

※弊社ホームページからダウンロードできます。

発行 有限会社 国大協サービス 協力 三井住友海上火災保険株式会社
 東京都千代田区神田錦町3-23